

小規模事業者による ちよびつと「DX」 経営活用事例



デジタル技術が急速に進展する中、中小企業白書によると8.2%の中小企業（小規模事業者に限ると14.2%）は「デジタル化について何も取り組んでいない」と回答しています。

その一方、同白書ではデジタル活用が進んでいる企業ほど、売上や労働生産性の上昇率が高い傾向にあることも指摘。不透明な経営環境において、この流れはますます強まっていくでしょう。

生成AIの登場など、第4次産業革命が到来したともいわれる昨今。資金や人手が限られている小規模事業者こそ、まずは身の丈に合ったデジタル活用を検討することが大切です。

コロナ禍以降、高岡商工会議所では個別相談会や専門家派遣、各種セミナーなどによって企業のデジタル化を支援してきました。今回はその一部をご紹介します。販路開拓や業務効率化の手段として、ぜひ参考にしてみてください。

高岡商工会議所のデジタル活用支援メニュー

- 専門家によるデジタル活用無料相談
- メルマガによるセミナー・補助金などの情報発信
- デジタルツールの補助金申請支援
- デジタル活用事例集の作成 など

コロナウィルスにより売上が「ゼロ」に オンライン活用を決断



Chiaki
Nishikawa

「ヨガをしている瞬間だけは、日常生活から解放されて心が軽くなるんです」

熱く語ってくれたのはヨガ教室「yoga space infinity」を営む西川ちあきさんだ。西川さんは2015年に会社勤めのかたわらヨガに出会う。トレーニングを重ねるにつれ、肉体と精神が鍛えられていく感覚に魅了された。

人生の折り返し地点である40歳が見えてきた4年前、ヨガの素晴らしさをより多くの人に広めたいと創業を決意。地域の公民館やカルチャーセンターへの出張レッスンを中心に活動し、滑り出しは順調に見えた。その矢先、予想だにしないことが起きる。コロナウィルスの感染拡大だ。

「一斉にキャンセルが入り、翌日から売上がゼロになるんです。目

の前が真っ暗になりましたよ」

しかし立ち止まっても仕方がない。そこからの西川さんの行動は早かった。

「対面レッスンができないのなら、オンラインでやるしか選択肢はなかったんです」商工会議所からコロナ対策関連の助成金の申請支援を受け、予約申し込み機能が付いたホームページなどを作成。顧客が自宅いながらパソコンやスマホを通し、オンラインでレッスンを受けられる環境を整えた。

当初はコロナウィルスが収まるまでの代替手段と考えていたが、オンライン予約の半数近くは県外からのもの。「海外在住者も3名いました。びっくりしましたね」

嬉しそうに振り返る西川さん。思いがけず商圈の広がりにつなげた瞬間だった。



アフターコロナを見据え

一方、現在は世の中がアフターコロナへとシフトしていることも実感している。

「対面レッスンへの回帰が強くみられます。オンラインで一度体験した人ほど、”もっと細かいところまで直接教えてほしい”という気持ちになるようです」今後は県内は対面・県外はオンラインと棲み分けを図っていくことも考えている。今ではオンラインで西川さんから学び、各地で創業する”弟子”も増えてきた。「将来はフランチャイズ展開も視野に入れています」

ヨガに出会って8年。夢はさらに広がっている。



拠点を移転

創業以来、英会話教室の一角を間借りしていたが、4月からは現在の場所に移転。念願の拠点を手に入れた。

「以前の場所は間借りということもあって、どうしても気を使ってしまう瞬間がありました。自分を育ててくれたこの街で、長くヨガを教えられる場所がほしかったんです。もちろん家賃の負担は増えます。それでも家事や育児、仕事で頑張っている人たちの憩いの場になればと決断しました」

教室に訪れる人は“新しい自分に出会いたい”“スタイルや健康を維持したい”“深くリラックスして精神的な疲れを取りたい”と動機は様々だ。

不透明な時代で、自分がどう生きるのかも問われる時代。ヨガですべてが解決できるとは思っていないが、一人一人の想いに寄り添って、少しでも悩みの解決に貢献できるのなら、とても嬉しい。

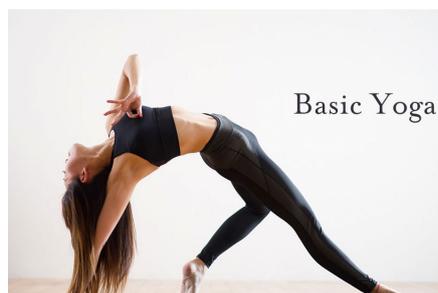
取材の終わり、最後に一言と聞いてみた。数秒後、西川さんの口から出た言葉。

「いつでも待っています！」

おしゃべりな西川さんがくれた「一言」は、ここがアットホームなヨガ空間であることを表現するのに十分だった。



ヨガのポーズ



ポーズがとれなくても大丈夫！まずは呼吸に意識を向けて、自分自身と向き合う時間を共有しましょう！

yoga space infinity (ヨガスペースインフィニティ)

代表 西川ちあき 富山県高岡市井口本江 100

電話 050-3748-8858

LINE・Instagramでも発信中!

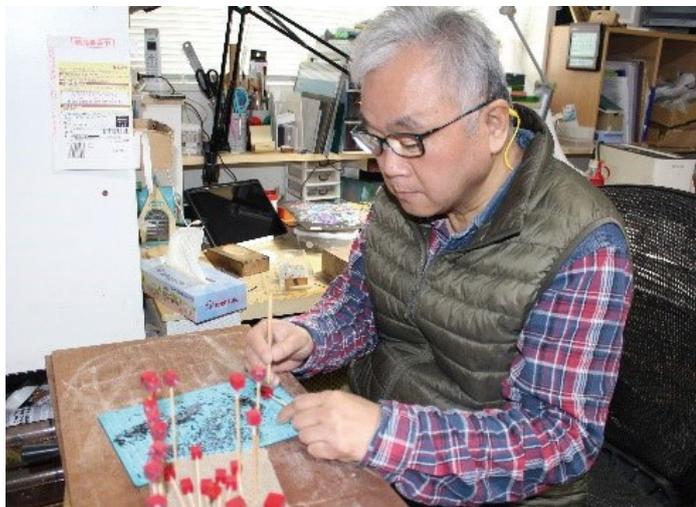
yoga space infinity

検索



▲ HPはこちら

クラウド会計の導入で業務効率化を実現



「とにかく会計業務に時間を取られていてね」

苦笑いする「螺鈿工房おりはし」の折橋さんは、高岡漆器を製造する伝統工芸士だ。日々、製品の納品や代金の請求といった会計業務があり、これまではエクセルで一件一件、手入力していた。金額が正しいかの確認に加え、仕訳が分からない場合はインターネットで検索。1カ月に1日は本業をストップし、事務作業にあてざるを得なかった。「コロナウィルスの影響は大きく、コントロールできない。ただ業務の効率化なら自分のタイミングで始められる」

そう考え、商工会議所と相談して導入を決めたのが「マネーフォワードクラウド」だ。これはインターネット環境があれば簡単に使用できるクラウド型の会計ソフトであり、会計、銀行の入出金、クレジットカード処理などを一元管理することができる。

現在は、ネット銀行と連携することで、入出金データはすべて自動取得。勘定科目も提案してくれ、間違っていたとしても仕訳内容を修正すれば、次回にはAIが正しく反映してくれる。おかげで週末に1時間ほど整理するだけで会計業務を回せているという。

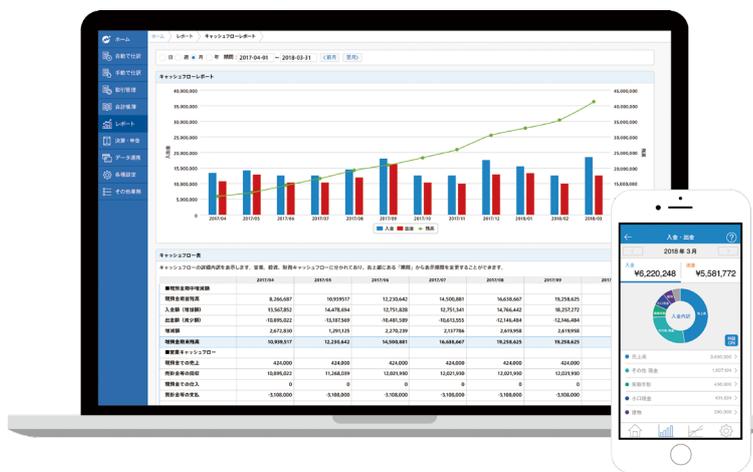
目標はデータ分析から売上拡大へ

「最初は操作方法に戸惑うこともあったけど、慣れてしまうとこっちのほうがラクだね」

折橋さんは会計だけではなく、請求書まわりも「マネーフォワードクラウド」に全面移行。システムが請求書、記帳、入金情報などを紐づけてくれるため、売掛金管理の手間が大きく減った。

「業務は効率化されたけど、数字を経営の指標としてどう活かすかはこれから。売上向上に繋がられるよう、分析ツールも使っていけたらいいよね」

逆境を契機にデジタル活用を決めた折橋さんの言葉は力強い。



マネーフォワードクラウドのデモ画面

螺鈿の魅力は次世代に

コロナが一旦の収束を見せてから、折橋さんは積極的に県内・県外のイベントに参加。螺鈿体験のワークショップを行っている。主に体験してくれるのは小・中学生だ。

「日本橋とやま館でワークショップをやったら参加してくれたお母さんがいてね。実家が高岡だって言うんだけど、今度は帰省したときに子供たちを連れてウチの工房まできてくれたんだよ」

二人の姉妹は自分のためにアクセサリー作り、高岡のおばあちゃんへプレゼントするために箸とスプーンを作っていた。後日、とても楽しかったというお礼の電話もあった。

逆のパターン。小学生のころ高岡で「ものづくり・デザイン科」の授業を受け、大人になって東京に住んでいる若者が来てくれることもある。

「今は原材料も上がっているし、インボイスも始まるし、小規模事業者にとっちゃ本当に大変だよ」と折橋さん。「けどさ、自分が40年以上やってきた漆器を、小さい子に伝えられるってこんなに嬉しいことはないだろ」

来週は長野から工房に中学生が来るという。5類移行後は県外の修学旅行生が一気に増えた。青い色調で輝く螺鈿細工に目を細め、みんな真剣に制限時間いっぱいになるまで向き合っている。

それはまるで、漆器職人として生きることを決めた40年前の自分のように。



螺鈿工房ありはし

代表 折橋治樹 住所 高岡市二上院内 578-34
電話 23-8040

☆ネットショップもやっています!



▲ HP はこちら

折橋さんが導入した
会計ソフトの詳細は

マネーフォワードクラウド 検索

※商工会議所会員限定の
割引制度あり

料理人から着色職人へ

「この間まではピンクに染めていたんです。目立つので展示会でもよく声を掛けられますね」

立派なあご髭を撫でながら取材に答えてくれた野阪和史さんは、高岡銅器の着色を行う色政の4代目。「高岡伝統産業青年会」の専務理事も務める業界の有望株だ。

もともとは調理の世界にいた野阪さんが、家業を継ぐためにUターンをしたのは今から15年前。単調な仕事だと思っていた着色の表現は実は奥深く、無限の可能性に満ちていた。探求心の強い野阪さんは、一瞬でこの世界にのめりこんだ。

「色政にしか出せない”色”を追求していくことで、お客さんからの信頼を勝ち取ろうと必死でしたよ」

そのためにはもっと見識を広める必要がある。着色だけではなく、鋳造や彫金職人、デザイナーらで組織する伝統産業青年会に加入した。異業種の仲間とクラフトイベントなどに参画することで、依頼通りに着色をするだけでなく、マーケティングの視点を学ぶことができたという。今ではお客様の商品開発段階に携わり、こちらから色表現の提案をすることも珍しくない。



伝統産業の技を次世代に

伝統産業の粋にとどまらない野阪さんの姿に憧れる若者も増えている。現在の従業員は2人とも県外出身者。SNSで発信される色政の技術に魅力を感じ、大学卒業後に自ら入社を希望してきた。

「自分だけでやっているほうが気楽なんですけど、若い人にどんどん業界に入ってきてもらって、着色の可能性を一緒に広げたいんです」

とはいっても、当初は日々舞い込む受注と、新人教育の両立を果たすことに苦悩。着色では使用する溶液の配合から吹き付け、乾燥まで、その工程は多様で複雑だ。ときには従業員に教えている間に一日が終わり、自分の仕事ができないこともあった。

「自分が仕事をしないと注文が回らない。でも技術を教えていかないと、いつまでも従業員は手持ち無沙汰になってしまう。『こりやまずいぞ!』と、さすがに焦りましたね(笑)」



創業当初から制作している仏具や花瓶の他、小物、インテリア、建材まで幅広く手掛ける



そこで商工会議所と補助金を活用して取り組むことを決めたのが、「動画マニュアル」の作成だ。タブレットに一連の作業や、素材ごとの工程の中で特に重要となるポイントについて、野阪さんが実演。適宜、写真やテキストでも補足説明を加えることで、教育時間の削減を実現した。「文字と比べて、動画だと視覚的に分かるので、頭に残りやすいようです。隙間時間に見ることができるのも良いですね。一度作ってしまえば何度も繰り返し使えますし、分かりにくいところはその都度追加しています」

リモート指導にも活用を予定

タブレットは遠隔現場における相談ツールとして活用することも計画している。近い将来、新人もひとりで出張着色作業を行わなければならない。その際、野阪さんがビデオ通話で確認、色配合の提案指示などを行うのだ。

「経験の浅い従業員にとって、ひとり客先で作業をするのは不安ですよ。でもいざとなったらビデオ通話で私がお客さんとお話もできる。お互い安心感が持てるし、作業効率も上がると考えています。ほかにも効率化できるところがないか、従業員と一緒にデジタル活用について相談しています」

従業員にはずっと一緒に働いてほしい。ただ将来的に「独立したい」と言われれば、あたたかく送り出そうとも思っている。

「若い職人が夢を持てる業界であってほしいんです。そうならば、伝統産業はきっと復活できると信じてるんで」

黙々と作業する従業員の背中を、野阪さんは優しい目で見つめていた。



有限会社色政 (いろまさ)

代表 野阪和史

住所 富山県高岡市横田本町11-32

電話 0766-25-4350

Twitter <https://twitter.com/momiage2255>



▲HPはこちら



▲Instagram
はこちら

入社2年目で青年部を担当

商工会議所も”ちょびっと”
デジタル活用はじめてます!

高岡商工会議所の荒木翔真さんは、入所2年目で中小企業相談所に勤務している。

小規模事業所からの労働保険委託事務や記帳指導の業務を行う一方、4月からは「高岡商工会議所青年部」の事務局を任された。

青年部の会員は約200名。全国でも屈指の規模を誇る、高岡商工会議所最大の外郭団体だ。期待の高さゆえの抜擢だった。「担当をしてみて、非常に事務量が多いのに驚きました。毎日、大量のメールが届き、その処理をするだけで時間が過ぎていきました」

当初は慣れない業務をこなすだけで精いっぱい。労働保険事務の繁忙期とも重なり、残業時間が増えていった。



デジタル化による業務効率化に着手

一ヵ月ほど経過し、ようやく青年部事務のイメージも掴めてきたころ、荒木さんは高岡商工会議所の「デジタル化推進室」に相談を持ち掛けた。

「業務の流れは把握できてきたのですが、だからこそ仕事のボリュームも明確になってきました。どこかやり方を変えることで、効率化できる余地はないかと考えてはみたものの、具体的な案はというと……なかなか浮かびませんでした。そこで当所のデジタル活用で業務効率化に取り組む『デジタル化推進室』のメンバーに相談してみたんです」

デジタル化推進室ができたのは3年前。これまで所内でのグループウェアの導入やペーパーレス化、稟議書の電子化など、デジタル活用を進めてきた。

まず荒木さんとデジタル化推進室で実施したのは、業務の洗い出し。どこに事務量の負荷が掛かっているのかを共有した。

「『見える化』といったら聞こえはいいですが、それよりも自分が”しんどい”部分を軽くしたかったですね(笑) もちろん事務局の負担だけが少なくなっても仕方がないので、青年部さんともウィンウィンにできるところが大前提だと考えました」



浮かび上がってきたのは、「予定と報告」の策定業務だ。青年部では毎月「執行部会議」「委員長会議」「理事会」の3つの会議を実施。毎回、資料として各委員会の「予定と報告」を提出している。その取りまとめを事務局が担当しており、10ある委員会に毎週メールで確認をしていた。「委員会からの返信を1枚のエクセルにまとめていました。返信のない委員会や、記載事項に不備のある委員会には電話で確認をしたりと、通年でかかる負担が大きかったです。まずはここから着手してみようということになりました」



Google スプレッドシートの導入

デジタル化推進室から提案を受けたのは、エクセルからスプレッドシートへの置き換えだ。これはインターネットを介して使用する表計算ソフトで、Google アカウントさえあれば無料で使用できる。見た目も使い方もエクセルとほとんど変わらない。

「大きく違うところは、同時編集が可能で、保存作業の必要もないところです。1枚のスプレッドシートで、各委員会が『予定と報告』を記載すれば、そのままクラウド上に保存されるんです。これにより、事務局で行っていたエクセルへの統合作業が一切なくなりました。青年部さんにとってもわざわざ入力したエクセルを個々のパソコンにダウンロードして、事務局にメールを送る必要がなくなったため、便利になったと好評です」

さらに効率化を図るために、各委員会で使用する商工ビルの会議室予約にもスプレッドシートを活用している。電話やメールで都度行っていた空き室の確認や予約作業を、スプレッドシートで共有することで削減

することができた。もちろん、これらに要した経費は「ゼロ」だ。「さすがZ世代!と言われますが、実は自分は大的アナログ人間」と荒木さん。「余裕ができた時間で、自分でもデジタルについて勉強していきたいですね」

商工会議所職員としての歩みは、始まったばかりだ。

	報告	予定
名称	題目: 地区・支部・内容他	題目: 地区・支部・内容他
締切	4/23(F木) 第1部(第1部)第1回定例会 16名	5/23(水) 第1部(第1部)第1回定例会 16名
締切	4/20(水) 第1部(第1部)第1回定例会 16名	5/25(金) 第1部(第1部)第1回定例会 16名
締切	5/13(高岡市制100周年) 第1部(第1部)第1回定例会 16名	6/8(土) 第1部(第1部)第1回定例会 16名
締切	5/9(日) 第1部(第1部)第1回定例会 16名	6/12(月) 第1部(第1部)第1回定例会 16名
締切	5/10(月) 第1部(第1部)第1回定例会 16名	6/12(月) 第1部(第1部)第1回定例会 16名
締切	5/17(日) 第1部(第1部)第1回定例会 16名	6/12(月) 第1部(第1部)第1回定例会 16名
締切	4/20(木) 第1部(第1部)第1回定例会 16名	5/19(金) 第1部(第1部)第1回定例会 16名

Google スプレッドシート。同時編集や自動保存ができるため、情報の共有に便利

高岡商工会議所

代表 塩谷 雄一
住所 富山県高岡市丸の内 1-40
電話 0766-23-5000



▲HPはこちら



▲LINEはこちら



▲Instagram
はこちら